重要な環境課題への対応戦略

キリングループは、「キリングループ環境ビジョン2050」の達成を目指し、強みである研究開発力とエンジニアリング力の活用を柱として独自の環境戦略を展開しています。戦略の策定や取り組みにおいては、バリューチェーンに関わるステークホルダーはもとより、社会の声を広く拝聴し、実行にあたってもNGOや地域の方々、次世代とともに、アウトカムを意識した活動を展開しています。

ルールメイキング

Science Based Targets Network

2021年2月27日、Science Based Targets Networkが主催するコーポレートエンゲージメントプログラムに国内医薬品・食品業界として初めて参画。2022年までに企業の自然資本利用（淡水、陸、海洋、資源利用、気候変動、汚染、外来種）に関する目標設定予定。

Alliance to End Plastic Waste

2021年3月、世界的なプラスチック廃棄物問題解決に取り組む国際的非営利団体「Alliance to End Plastic Waste」に参加。さまざまなステークホルダーとともに「プラスチックが循環し続ける社会」の実現に向け、グローバルな視点でプラスチック廃棄物問題解決を目指し活動。

シナリオ

物理的リスク

- 農産物の収量減による調達コストの増加
- 渇水・洪水による操業停止・配送停止
- 渇水・洪水による原料農産物収量減
- 気候変動による社会課題（感染症、熱中症）

移行リスク

- カーボンプライシングによるエネルギー費用高騰
- カーボンプライシングによるバイオエネルギーへの依存度増大・農地逼迫
- 国内農業労働者減による遊休荒廃地増
- 配慮のない農業・林業による生態系棄損
- 小農園の農業技術レベルの低さに起因する農産物収量減・環境棄損
- バリューチェーン上流の人権侵害
- 排水への汚染物質漏出

財務インパクト

ポジティブ

- 感染症対策市場
- 熱中症対策市場
- 原材料安定供給
- エシカル消費

ネガティブ

- 農産物調達コスト増
- 製造停止による収益減
- 配送停止による収益減
- 省エネルギーコスト増大
- 再生可能エネルギー枯渇・コスト増大
- プラスチック問題でのブランド棄損
- 人権問題でのブランド棄損
- 法令違反

キリングループの強み

キリングループ環境ビジョン2050の強化ポイント

取り組み姿勢と範囲

自社で完結するものから、社会全体へ
国内中心からグローバルへ
ネガティブインパクト最小化から
次の世代を巻き込み社会全体で

生物資源

- 持続可能な農産物の育種・展開・調達
- 農産物生産地の持続可能性向上

水資源

- グループ拠点で水使用量削減継続
- バリューチェーンにおける水課題の解決

容器包装

- リサイクルシステムの構築
- 新容器・サービスの開発

気候変動

- 2050年までにGHG排出ネットゼロ
- 早期に再生可能エネルギー100%（RE100）
- 脱炭素社会をリード

研究開発力

キリン中央研究所

植物大量増殖技術

パッケージイノベーション研究所

パッケージ開発技術力

エンジニアリング力

各社エンジニアリング部門およびキリンエンジニアリング社

岡山工場ヒートポンプ設備

パートナーシップ力

スリランカ紅茶農園

FSC認証

サンプル

次世代